

理事長任期を終えて

皆様、2014年5月23日、第26回日本内分泌外科学会総会終了と同時に私の二年間の理事長任期が終了いたしました。高見博前理事長(現伊藤病院顧問)から理事長および事務局業務を引き継ぎましたが、高見先生が長い間日本甲状腺外科と両学会の理事長であったところから、私が急に日本内分泌外科学会のみ理事長になり、引き継ぎが円滑、迅速に行かず皆様に多大なご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。

震災後、一度は無かった命と考え、福島県の県民健康管理調査に命をかけて携わっていた矢先に、理事長選がありました。多くの先生のご支援をいただき、命をかけ学会改革に邁進するそのエネルギーだけで立候補を引き受けました。財政改革と財務の透明性を1つの目的としましたが、専門医制度、編集委員会、NCD、ガイドラインなど多くの委員会が内分泌外科、甲状腺外科両学会にまたがっており、委員の人選、任期、会計、事務局などの問題は内分泌外科だけでは解決しないことを痛感させられました。

「運営事務局を外部に委託することが出来る」という学会細則の変更を提案し承認いただき、外部へ運営事務局を委託する件が任期中に何とか実現いたしました。専門医制度委員会も外部に運営事務局を置くという方針は理事会での了承を得ております。

理事長を務めて実感したことは、財政の健全化以外に2点あります。

1つは、韓国に象徴されるアジア全体の内分泌外科の発展に比べ、日本の国際的な活動力の低下です。

もう1点は、内分泌外科学会と甲状腺外科学会のあり方です。専門医制度の名称が「内分泌・甲状腺外科専門医」であり、他領域からは甲状腺は内分泌に包括されるため甲状腺が重なっている様にも受け取れます。外科の専門医制度の中での位置づけも重要ですが、本学会が基盤学会を異にしても内分泌外科をサブスペシャリティとするものの集まりと認識しております。その様な時に新理事長に泌尿器科の松田公志先生がご就任されたことは極めて重要なことと考えております。

この2つの課題は結局内分泌外科を志す若者が増えない原因にもなっており、今後解決しなければならないと思っております。

今後は監事として理事会、委員会活動に参加し、松田新理事長を支え、本学会の発展に微力ながら貢献したいと思います。

皆様には2年間、ご支援ならびにご指導いただきましてありがとうございます。

平成26年5月31日

福島県立医科大学医学部 甲状腺内分泌学講座

日本内分泌外科学会 前理事長

鈴木 眞一